

14. プログラム担当者の構成 計 98 名					
外国人の人数	18	人	[18 %]	女性の人数	4 人 [4 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [73.4 %]					
プログラム実施大学に属する者			70	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			60	そのうち、大学等以外に属する者	

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
(プログラム責任者) 高橋 哲也	タカハシ テツヤ		大阪府立大学高等教育推進機構 副機構長(兼)学長補佐	整数論・暗号理論・ 数学教育 理学博士	事業総括
(プログラムコーディネーター) 辰巳砂 昌弘	タツミサコ マサヒロ		大阪府立大学大学院工学研究科研究科長、工学研 究科物質・化学系専攻・教授	無機材料化学 工学博士	プログラムの総括、プログラムの設計・運用
安保 正一	アンボ マサカズ		大阪府立大学名誉教授	触媒化学・光化学 工学博士	プログラム運営調整総括、府大市大連携総 括、教育・研究指導の実施
伊藤 智博	イトウ トモヒロ		大阪府立大学大学院工学研究科 機械系専攻・教授	機械力学 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
三村 耕司	ミムラ コウジ		大阪府立大学大学院工学研究科 機械系専攻・教授	固体力学 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
横山 良平	ヨコヤマ リョウヘイ		大阪府立大学大学院工学研究科 機械系専攻・教授	エネルギーシステム 工学 工学博士	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
福田 弘和	フクダ ヒロカズ		大阪府立大学大学院工学研究科 機械系専攻・准教授	バイオプロダクション 工学 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
大塚 耕司	オツカ コウジ		大阪府立大学大学院工学研究科 航空宇宙海洋系専攻・教授	海洋環境学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
有馬 正和	アリマ マサカズ		大阪府立大学大学院工学研究科 航空宇宙海洋系専攻・准教授	海洋システム工学 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
山崎 哲生	ヤマザキ テツオ		大阪府立大学大学院工学研究科 航空宇宙海洋系専攻・教授	深海底鉱物学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
小木曾 望	コギソ ノゾム		大阪府立大学大学院工学研究科 航空宇宙海洋系専攻・准教授	システム工学、信頼性 工学、最適設計 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
秋田 成司	アキタ セイジ		大阪府立大学大学院工学研究科 電子・数物系専攻・教授	ナノデバイス 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
石原 一	イシハラ ハジメ		大阪府立大学大学院工学研究科 電子・数物系専攻・教授	固体理論、光物性理 論 工学博士	副コーディネーター、カリキュラムと評価方法 の開発、実施、教育・研究指導の策定、実施
内藤 裕義	ナイトウ ヒロヨシ		大阪府立大学大学院工学研究科 電子・数物系専攻・教授	有機エレクトロニクス 工学博士	教育・研究指導計画の策定、実施
藤村 紀文	フジムラ ノリミ		大阪府立大学大学院工学研究科 電子・数物系専攻・教授	電子材料・デバイス 博士(工学)	副コーディネーター、カリキュラムと評価方法 の開発、実施、教育・研究指導の策定、実施
芦田 淳	アシダ ジュン		大阪府立大学21世紀科学研究 機構・教授	電子材料、結晶工学 博士(工学)	カリキュラムと評価方法の開発、教育・研究 指導の策定、実施
沈 用球	シム ヨウク		大阪府立大学21世紀科学研究 機構・准教授	光物性実験、半導体 物性 博士(工学)	カリキュラムと評価方法の開発、教育・研究 指導の策定、実施
石亀 篤司	イシガメ アツシ		大阪府立大学大学院工学研究科 電気・情報系専攻・教授	電力システム工学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
石淵 久生	イシブチ ヒサオ		大阪府立大学大学院工学研究科 電気・情報系専攻・教授	計算知能 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
黄瀬 浩一	キセ コウイチ		大阪府立大学大学院工学研究科 電気・情報系専攻・教授	情報工学 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
戸出 英樹	トデ ヒデキ		大阪府立大学大学院工学研究科 電気・情報系専攻・教授	情報ネットワーク学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育運営委員、教育・研究 指導計画の策定、実施
中島 智晴	ナカシマ トモハル		大阪府立大学大学院工学研究科 電気・情報系専攻・教授	人工知能 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
井上 博史	イノウエ ヒロシ		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	電気化学 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
荻野 博康	オキノ ヒロヤス		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	化学工学・反応工学 生物科学工学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
河野 健司	コノケンジ		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	生体関連高分子化 学 工学博士	教育・研究指導計画の策定、実施
小西 康裕	コニヤスヒロ		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	プロセス工学 工学博士	教育・研究指導計画の策定、実施
松岡 雅也	マツオカ マサヤ		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	物理化学・触媒化 学・ 光化学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育運営委員、教育・研究 指導計画の策定、実施
松本 章一	マツモト アキカス		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	高分子化学 工学博士	教育・研究指導計画の策定、実施
森 茂生	モリシゲオ		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	材料物理学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
綿野 哲	ワタノ サトル		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	化学工学(粉体工 学) 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
沼倉 宏	ヌクラ ヒロシ		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・教授	材料物性工学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
林 晃敏	ハヤシ アキトシ		大阪府立大学大学院工学研究科 物質・化学系専攻・准教授	無機材料化学 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
河村 裕一	カワムラ ユウイチ		大阪府立大学大学院工学研究科 量子放射線系専攻・教授	ナノ構造光デバイス 理学博士	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
乾 隆	イスイ タカシ		大阪府立大学大学院生命環境科学研究科応用生命 科学専攻・教授	タンパク質科学 理学博士	SIMS運営委員、教育運営委員、教育・研究 指導計画の策定、実施
小泉 望	コイズミノゾム		大阪府立大学大学院生命環境科学研究科応用生命 科学専攻・教授	植物分子生物学 博士(農学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
山地 亮一	ヤマジ リョウイチ		大阪府立大学大学院生命環境科学研究科応用生命 科学専攻・教授	分子栄養学 博士(農学)	教育・研究指導計画の策定、実施
東條 元昭	トウジョウ モトアキ		大阪府立大学大学院生命環境科学研究科応用生命 科学専攻・准教授	植物バイオ 博士(農学)	教育・研究指導計画の策定、実施
青木 考	アオキ コウ		大阪府立大学大学院生命環境科学研究科応用生命 科学専攻・教授	応用ゲノム 博士(理学)	教育・研究指導計画の策定、実施
北宅 善昭	キタヤ ヨシアキ		大阪府立大学大学院生命環境科学研究科緑地環境 科学専攻・教授	生物環境調節学 農学博士	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
瀬田 和久	セタ カスヒサ		大阪府立大学大学院理学系 研究科情報数理学専攻・教授	教育システム情報学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
細越 裕子	ホソコシ ユウコ		大阪府立大学大学院理学系 研究科物理科学専攻・教授	物性科学 博士(理学)	SIMS運営委員、教育運営委員、教育・研究 指導計画の策定、実施
柳 日馨	リュウ イルヒコン		大阪府立大学21世紀科学研究機構・特認教授	有機合成化学 工学博士	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
神川 憲	カミカワ ケン		大阪府立大学大学院理学系 研究科分子科学専攻・教授	有機化学/有機合成 化学 博士(理学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
久保田 佳基	クボタ ヨシキ		大阪府立大学大学院理学系 研究科物理科学専攻・教授	構造物性 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
藤井 郁雄	フジイ イクオ		大阪府立大学大学院理学系 研究科生物科学専攻・教授	生物化学 薬学博士	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
吉田 敦彦	ヨシダ アツヒコ		大阪府立大学大学院人間社会学研究科長、人間社 会学研究科人間科学専攻・教授	教育人間学、ホリス ティック教育学博士(教 育学)	教育運営委員、リテラシー教育プログラムの 策定、実施
Joseph Britton	ブリトン ジョセフ		大阪府立大学高等教育推進機構・ 特命教授	スピーチプレゼンテーシ ョン 理学士	グローバルリーダー教育プログラムの策定と 実施
松井 利之	マツイ トシユキ		大阪府立大学21世紀科学研究 機構・教授	材料物性学 博士(工学)	副コーディネーター、プログラム運営に際しての学内調整、 教育・研究指導計画の策定、実施
上野山 雄	ウエノヤマ タケシ		パナソニック株式会社・フェロー	半導体・デバイス ディスプレイPh.D	プログラムアドバイザー
高須 秀視	タカス ヒデミ		ローム株式会社・常務取締役 LSI統括本部長 兼 研 究開発担当	半導体デバイス 工学修士	プログラムアドバイザー
永広 建志	ナガヒロ ケンシ		関西アーバン銀行・元専務取締役	人事管理・経営マ ネージメント法学士	統括メンター、教育計画の策定支援
酒井 俊彦	サカイ トシヒコ		住友金属テクノロジー株式会社・ 元代表取締役社長	計測工学・自動化技 術・技術マネジメント 工学博士	学生メンター、教育計画の策定支援

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
松田 元伸	マツダ モトノブ		大阪府立大学21世紀科学研究 機構・プログラム運営統括	精密工学・技術マ ネージメント工学士	学生メンター、教育計画の策定支援
升本 久幸	マシモト ヒサユキ		大阪府立大学 高等教育推進機構・統括コーディネ ーター	精密工学・技術マ ネージメント工学修 士	学生メンター、教育計画の策定支援
藤田 正明	フジタ マサアキ		大阪府立大学 21世紀科学研究機構・特認教授	電気工学 工学修士	学生メンター、教育計画の策定支援
河北 哲郎	カワキタ テツオ		大阪府立大学 高等教育推進機構・ 統括コーディネーター	半導体工学電子デ バイス 博士(工 学)	プログラム支援室運営統括、学生メンター、教育計画の策定
鈴木 利雄	スズキ トシオ		大阪府立大学 高等教育推進機構・ 統括コーディネーター	博士(理学)	学生メンター、教育計画の策定支援
奥田 浩之	オクダ ヒロキ		大阪府立大学21世紀科学研究 機構・客員研究員 (りそな銀行)	金融学 学士	教育プログラムのコーディネート
横川 善之	ヨコガワ ヨシユキ		大阪市立大学大学院工学研究科機械物理系専攻・ 教授	生体材料 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
兼子 佳久	カネコ ヨシヒサ		大阪市立大学大学院工学研究科機械物理系専攻・ 教授	材料工学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
重川 直輝	シゲカワ ナオテル		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 教授	半導体デバイス物 理 博士(理学)	教育・研究指導計画の策定、実施
高橋 秀也	タカハシ ヒデアキ		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 教授	電気情報システム 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
金 大貴	キン テキ		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 教授	ナノ材料工学、光 物性実験 博士(理学)	SIMS運営委員、教育運営委員、教育・研究 指導計画の策定、実施
中山 正昭	ナカヤマ マサアキ		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 教授	半導体光物性 理学博士	副コーディネーター、カリキュラムと評価方法 の開発、実施、教育・研究指導の策定
阿多 信吾	アタ シンゴ		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 教授	情報通信工学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育運営委員、教育・研究 指導計画の策定、実施
鳥生 隆	トリウ タカシ		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 教授	画像処理、コンピュ タ ビジョン 理学博士	SIMS運営委員、教育運営委員、教育・研究 指導計画の策定、実施
原 晋介	ハラ シンスケ		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 教授	情報通信工学 工学博士	教育・研究指導計画の策定、実施
田窪 朋仁	タノボ トモヒト		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 准教授	ロボット工学 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
仕幸 英治	シヨウ エイジ		大阪市立大学大学院工学研究科電子情報系専攻・ 准教授	スピントロニクス 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
小島 誠也	コノハタ セイヤ		大阪市立大学大学院工学研究科化学系専攻・ 教授	光機能材料化学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育運営委員、教育・研究 指導計画の策定、実施
辻 幸一	ツジ コウイチ		大阪市立大学大学院工学研究科化学系専攻・ 教授	分析化学 工学博士	教育・研究指導計画の策定、実施
長崎 健	ナガサキ タケシ		大阪市立大学大学院工学研究科化学系専攻・ 教授	医用材料工学、生体 機能工学 博士(工学)	SIMS運営委員、教育・研究指導計画の策 定、実施
立花 亮	タチバナ アキラ		大阪市立大学大学院工学研究科化学系専攻・ 准教授	分子生物学 博士(理学)	教育・研究指導計画の策定、実施
堀邊 英夫	ホリベ ヒデオ		大阪市立大学大学院工学研究科化学系専攻・ 教授	高分子物性 博士(工学)	教育・研究指導計画の策定、実施
西岡 隆夫	ニシオカ タカオ		住友電気工業(株)・アドバンスドマテリアル研究所無 機材料研究部・ 部長	金属・無機材料 工学博士	学生指導、インターン受入対応
多田 裕	タダ ヒロシ		村田製作所・執行役員	高周波・品質保証 工学士	学生指導、インターン受入対応
新井 利明	アライ トシアキ		株式会社日立製作所ディフェンス社・主管技師長	情報システム 博士(工学)	学生指導、インターン受入対応
守安 隆	モリヤス タカシ		東芝ソリューション(株)IT技術研究開発センター企画 部	情報システム 博士(工学)	学生指導、インターン受入対応
唐崎 敏彦	カラサキ トシヒコ		コニカミノルタ(株)・常務取締役 オフィクスカンパニー長	製造業経営 工学修士	学生指導、インターン受入対応
生駒 京子	イコマ キョウコ		(株)プロアシスト・代表取締役社長	経営・情報工学 学士	学生指導、インターン受入対応
松浦 裕	マツウラ ユウタ		日立金属(株)NOMAX事業部 ・技師長	永久磁石材料開発 工学博士	学生指導、インターン受入対応

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成27年度における役割)
石原 英幹	イシハラ ヒデキ		ニッポーメディカル株式会社 研究開発部・研究開発部長	診断 医学博士	学生指導、インターン受入対応
和泉 憲明	イズミ ノリアキ		(独)産業技術総合研究所知能システム研究部門・上 級主任研究員	サービスシステム開 発 博士(工学)	学生指導、インターン受入対応
Angus I. Kingon	アングス キンゴン		Prof. of Eng. and Barrett Hazeltine Univ. Prof. of Entrepreneurship and Organizational Studies at Brown Univ.	材料化学・ Entrepreneurship教 育学 Ph.D.	プログラムアドバイザー、カリキュラム策定支 援、留学受入対応
Michel CHE	ミシェル シェ		Université Pierre et Marie Curie・Professor	Chemical Engineering Ph.D.	プログラムアドバイザー、カリキュラム策定支 援、留学受入対応
Jinlong Zhang	チョウ キンリュウ		華東理工大大学院工学研究科 応用化学専攻・教授	応用化学 博士(応用化学)	学生指導、留学受入対応
Oh, Myung-Hoon	オー ミョンホン		Kumoh National Institute of Technology, School of Advanced Materials and Systems Engineering・ Professor	Metallic Materials Ph.D.(Engineering)	学生指導、留学受入対応
Jintawat Chaichanawong	ジントワット カイチャナワン		Thai-Nichi Institute of Technology (TNI), Faculty of Engineering・ Associate Professor	Chemical Engineering Dr. Eng.	学生指導、留学受入対応
Nancy Southern	ナンシー スーザン		Saybrook University, School of Organizational Leadership and Transformation・Professor	Organizational learning and development・ ED.D.	学生指導、留学受入対応
Amrit Tiwana	アーミット ティワナ		Terry College of Business, University of Georgia・ Associate Professor	Information system Ph.D.	学生指導、留学受入対応
Chang-Shing Lee	チャンシン リ		National University of Tainan, Dept. of Computer Science and Information Engineering・Professor	Computer Science and Information Engineering Ph.D.	学生指導、留学受入対応
Petar Popovski	ペーター ポポフスキー		Aalborg University, Department of Electronic Systems・Professor	Communications Theory Ph.D.	学生指導、留学受入対応
Kyesan Lee	ケサン リ		Kyung Hee University, School of Electronics and Information・Professor	Communications Engineering Ph. D.	学生指導、留学受入対応
Phal Des	ファル デス		the Royal University of Phnom Penh, ViceRector・ Professor	Information Science D.E.S	学生指導、留学受入対応
Andreas Dengel	アンドレアス テンゲル		Computer Science Department University of Kaiserslautern・ Professor	Computer Science and Economics Dr. rer. nat.	学生指導、留学受入対応
Ingrid De Wolf	イングリット ウォルフ		imec・Manajour	MEMS reliability Ph.D.(science,Physi cs)	学生指導、海外インターン受入対応
Alex Ho	アレックス ホ		CEO of Anabas, Inc.	Information System Ph.D.	学生指導、海外インターン受入対応
松並 直人	マツナミ ナオト		Hitachi Asia, Ltd. R&D Center・General Manager	情報システム 学士(工学)	学生指導、海外インターン受入対応

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度 * (今後の募集予定: 有(無))	
プログラム募集定員数 (実数)	人	20人	20人	20人	
① 応募学生数	人	44人	23人	31人	
	うち留学生数	人	1人	5人	2人
	うち自大学出身者数	人 (人)	44人 (1人)	20人 (2人)	27人 (1人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	0人 (0人)	3人 (3人)	3人 (1人)
	うち社会人学生数	人 (人)	0人 (0人)	0人 (0人)	1人 (0人)
うち女性数	人 (人)	4人 (1人)	3人 (1人)	6人 (0人)	
② 合格者数	人	21人	17人	20人	
	うち留学生数	人	0人	2人	2人
	うち自大学出身者数	人 (人)	21人 (0人)	16人 (1人)	17人 (1人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	0人 (0人)	1人 (1人)	3人 (1人)
	うち社会人学生数	人 (人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)
うち女性数	人 (人)	1人 (0人)	2人 (1人)	5人 (0人)	
③ ②のうち受講学生数	人	21人	17人	20人	
	うち留学生数	人	0人	2人	2人
	うち自大学出身者数	人 (人)	21人 (0人)	16人 (1人)	17人 (1人)
	うち他大学出身者数	人 (人)	0人 (0人)	1人 (1人)	3人 (1人)
	うち社会人学生数	人 (人)	0人 (0人)	0人 (0人)	0人 (0人)
うち女性数	人 (人)	1人 (0人)	2人 (1人)	5人 (0人)	
プログラム合格倍率 (①応募学生数/②合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	0.00倍	2.10倍	1.35倍	1.55倍	
充足率 (合格者数/募集定員)	0.00%	105.00%	85.00%	100.00%	

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成28年度 * (今後の募集予定: 有・無)については、平成28年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度						平成29年度	平成30年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成25年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成26年度選抜							14	7	0	0	0	21	0	14	7	0	0	21	0	0	13	7	0	20		
うち留学生数							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち自大学出身者数							14	7	0	0	0	21	0	14	7	0	0	21	0	0	13	7	0	20		
うち他大学出身者数							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち社会人学生数							0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数							1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1		
平成27年度選抜													14	3	0	0	0	17	0	14	3	0	0	17		
うち留学生数													2	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2		
うち自大学出身者数													13	3	0	0	0	16	0	13	3	0	0	16		
うち他大学出身者数													1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1		
うち社会人学生数													0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち女性数													2	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	2		
平成28年度選抜																			17	3	0	0	0	20		
うち留学生数																			1	1	0	0	0	2		
うち自大学出身者数																			15	2	0	0	0	17		
うち他大学出身者数																			2	1	0	0	0	3		
うち社会人学生数																			0	0	0	0	0	0		
うち女性数																			5	0	0	0	0	5		
計	0	0	0	0	0	0	14	7	0	0	0	21	14	17	7	0	0	38	17	17	16	7	0	57		
うち留学生数																								4		
うち自大学出身者数																								53		
うち他大学出身者数																								4		
うち社会人学生数																								0		
うち女性数																								8		
修了者数(予定者を含む)						—						—						—							7	16
就職者数						—						—						—								
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数						—						0						3						2		

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。
 ※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。
 ※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程 該当なし

(各年度3月31日現在(ただし平成28年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度					平成29年度	平成30年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成25年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成26年度選抜										0					0					0		
うち留学生数										0					0					0		
うち自大学出身者数										0					0					0		
うち他大学出身者数										0					0					0		
うち社会人学生数										0					0					0		
うち女性数										0					0					0		
平成27年度選抜															0					0		
うち留学生数															0					0		
うち自大学出身者数															0					0		
うち他大学出身者数															0					0		
うち社会人学生数															0					0		
うち女性数															0					0		
平成28年度選抜																				0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
うち留学生数																				0		
うち自大学出身者数																				0		
うち他大学出身者数																				0		
うち社会人学生数																				0		
うち女性数																				0		
修了者数(予定者を含む)																						
就職者数																						
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成28、29、30年度については、修了予定者数を記入してください。

※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

本リーディングプログラムでは、「ことづくり」の発想から深い物質科学の素養を活かすことができ、階層融合的な研究戦略を想起できる「システム発想型」物質科学リーダーを養成することに特段の努力を払う。また、本プログラムは、申請大学が持つ強みを最大限に発揮するリーダー養成システムを構築すべく、高度な学術的研究成果を産業の開拓に強みに結びつける高い企業マインドを持ち、「基礎から実用展開への生きたリンク」を構築できる、産業界に主軸を置くリーダーの養成に思い切って特化する。

20世紀における物質科学を発信源としたイノベーションにおいては、物質からデバイス、さらにシステムまでを包含するエレクトロニクスの高度な階層化が役割を果たした。しかし近年、このような技術枠組みでは対応できない新しい物質概念が登場し、物質階層とシステム階層が高度に融合した新しい研究パラダイムが拓かれてきた。さらに「ことづくり」を中心とする産業構造シフトが顕在化し、技術的階層の融合に止まらず、シーズ的視点を超えて、システム、事業的視点に立つ発想からフィードバックされた戦略的な階層融合研究の推進が、持続的で国際競争力のある産業、また安全安心社会・持続型社会を支える産業の構築には必須の要素となりつつある。

このことを鑑みれば、我が国が国際競争力を復活させて行くためには、「もの」の開発に「こと」の考え方をダイレクトに融合し、「ものづくり」を、それぞれのものに閉じた階層から解き放ち、素材から機能分子・デバイス、さらにそれらを統括するシステムまでの階層が高度に融合された斬新なシステム発想型研究開発戦略を想起できる高度研究リーダーが今まさに必要であり、その育成体制の構築こそが我が国の急務であると言える。この問題意識に基づき、本プログラムでは、単一階層に閉じた発想からは決して具現化しないイノベーションをエレクトロニクス分野、エネルギー分野そして生命科学分野へと誘導し、「ものからことへの生きたリンク」を構築できる「システム発想型」研究リーダーを養成する。また、単に出口を見据えた研究手法を有する研究者を養成するのではなく、「新しいことづくり」の概念を創出でき、社会システムまでを見渡せる人材を養成する。

上記目標を達成すべく、本プログラムは物質科学リーダー養成を、エネルギー材料、エレクトロニクス材料、生体材料の分野で展開する。大阪府立大学と大阪市立大学は、上記分野で世界的業績のある研究グループが、特に公立大学の使命として、質の高い物質科学研究と実用研究を共存させ、基礎から実用への「生きたリンク」を構築することで、産業的アウトプットを最大化することに注力してきた。本学位プログラムでは、これらの教育・研究資源を最大限に活かし、システム発想型の産業牽引型研究リーダーを養成する。さらに本プログラムでは、カリキュラムの横串的要素として世界的業績を有するシステム・情報系の教員が全面的に参画し、物質系の学生とシステム・情報系の学生が共存するプログラムの中で、「もの」の素養と「こと」の発想が実質的に結びつくための工夫がなされていることも重要な特色である。

また、以上の養成目標を具現化すべく、本プログラムでは、システム・情報関連教員、企業教員の大胆な導入により構成されたカリキュラムを通して具体的に次のような素養を併せ持つリーダーを養成する。

- ・ 物質科学の専門分野をリード出来る確固とした物質科学基礎力
- ・ システム的発想から階層融合的に研究戦略を構築できるデザイン力
- ・ 基礎的研究を産業的イノベーションへ結びつける突破力とマネジメント力
- ・ 自らの発想を世界に根付かせるリーダーシップと国際発信力

これらの素養を翼として、国際競争力を持ち、持続的社会的実現に貢献できる産業を構築出来るリーダーの育成が本プログラムの目標である。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム

(Graduate Course for System-inspired Leaders in Material Science: SiMS)

【SiMS 学位プログラムカリキュラムの特徴と養成される具体的素養】

1. リテラシー科目と物質科学基礎科目によって醸成される科学を俯瞰的に見ることのできる**物質科学基礎力**を基盤とし、システム系科目によって横断的にそして相補的に付加される**システム発想型物質開発力**
2. インターディシプリナリー科目によって養われる**分野・階層横断的研究力**
3. アイディエーション科目とグローバル科目によって養成される**物質科学マネジメント能力、国際力、デザイン力、牽引力**
4. 上記の素養とアントレプレナーシップ科目教育によって融合的に醸成される「エネルギー・エレクトロニクス・生体」物質科学分野の産業にイノベーションを起こし得る**システム発想型問題設定力**

◎戦略的システム思考特別演習

システムの機能や役割の解析方法を習得し、その社会問題（上層）あるいは技術ベース（下層）との相関を論理的に導き、帰納的に研究戦略を練るグループワーク。グループに1名の企業幹部経験者がメンターとしてサポート。

◎国際アイディエーション演習

・TEC-I で行う特許を用いたビジネス企画を Program in Innovation Management and Entrepreneurship 教員（米ブラウン大）に講演、その後米企業でのダイアログを行う。

・優秀講演は再度渡米し、海外企業とベンチャーキャピタルが参加する Ideation Workshop で議論し、自身のビジネスプランを発展させる。

◎グローバルコミュニケーション演習

・e-Learning システムによる基礎外国語（英語に限らない）の涵養。

・外部講師による話せる脳のトレーニング：発想（何を話すか）、伝達（どう伝えるか）、これらから「話す」という行動を効果的に導く演習

・外国人プログラム担当者（学内、セイブルック大学）による国内外でのリーダーシップ演習

・TED.com を用いたグローバル環境の実感とそれをテーマにしたダイアログ演習

◎グローバルリーダー演習

企業を含む海外での研究に従事。

